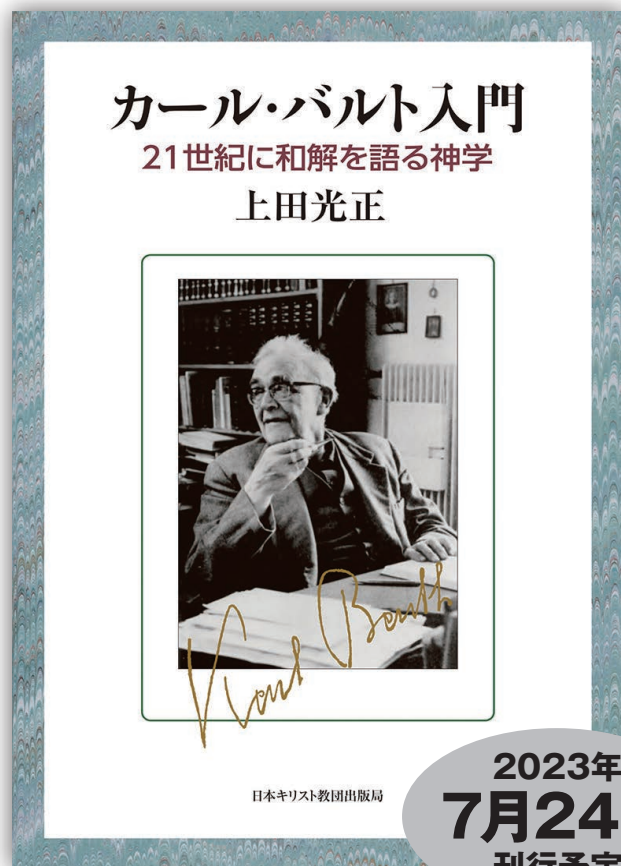


◆2023年7月の新刊

日本キリスト教団出版局

カール・バルト入門

21世紀に和解を語る神学



う え だ み つ ま さ
上田光正 著

1942年、東京生まれ。1966年、東京神学大学大学院修士課程修了。1968年、東京大学大学院修士課程修了（哲学）。1968-1973年、ドイツ留学。神学博士号取得（組織神学）。帰国後、日本基督教団安芸教会、若草教会、美竹教会、曳舟教会牧師を歴任。現在は日本基督教団伊東教会協力牧師。

危機神学として日本の教会に多大な影響を与えたバルト神学。21世紀に入り、分断と対立が深刻化する今日、著者は「和解の神学」としてのバルトの価値にも目をとめる。バルト神学はお互いの正義をかざして裁きあう現代世界（万人の万人に対する闘争の世界）に対して福音なのである。

A5判・並製・176頁・定価2,640円（本体2,400円＋税）
ISBN978-4-8184-1139-5 C0016

目次

I 部 バルトにとっての啓示の意味

- 1章 バルト神学の揺籃
- 2章 『ロマ書』を中心に
- 3章 神学の形成を目指す歩み

II 部 バルトの福音理解について

- 4章 神とはどのようなお方か
- 5章 恵みの選びについて
- 6章 キリストによる神との和解
- 7章 神と和解させられた人間について
- 8章 バルト神学の今日的意義

2023年
7月24日
刊行予定

◆2023年7月の新刊

日本キリスト教団出版局

ナウエン・セレクション **若い** 人生の完成へ

《第5回配本》

ヘンリ・ナウエン／ウォルター・ガフニー 著

1932～1996年。オランダ生まれ。カトリック司祭。イエール大学、ハーバード大学などで教鞭をとり、1986年以降、カナダ・トロントにある障害のある者、ない者が共に生きるデイブレイク・ラルシュ共同体でチャプレンを務める。

1939～2020年。ナウエンのイエール大学での教え子であり、カトリック司祭からソーシャルワーカーに転じた。

はらこ
原みち子 訳

1941～2013年。東京大学教養学部教養学科フランス科卒。ブラジル、メキシコ、オーストラリアに在住の経験をもつ。児童文学書、キリスト教関係書を中心に翻訳に従事。

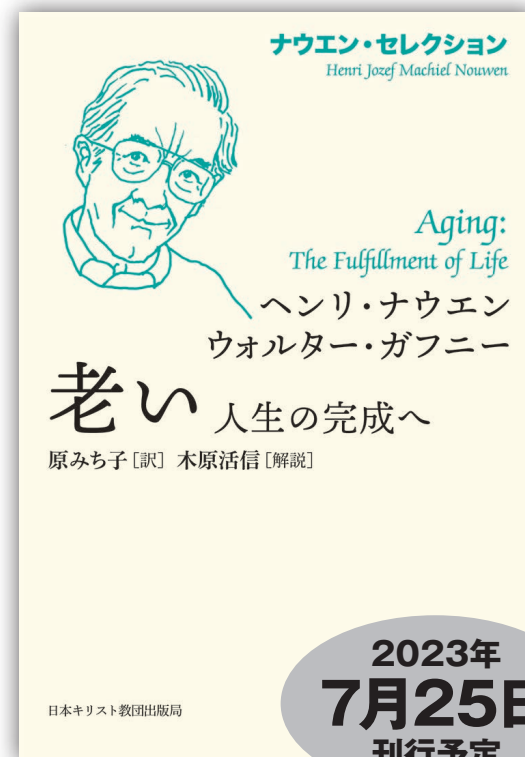
きはらかつのぶ
木原活信 解説

同志社大学社会学部教授。博士（社会福祉学）。東京都立大学助教授、トロント大学大学院客員研究員を経て現職。日本社会福祉学会前会長。日本キリスト教社会福祉学会会長。

20世紀を代表する霊的指導者ナウエンが、「若い」を語る注目作。福音の光に照らすとき、若いは、隠したり否定したりすべきことではなく、人生の完成に向かう成長の道のりであることがわかる。高齢者を世話（ケア）することの深い意味をも明らかにする。

四六判・並製・144頁・定価1,980円（本体1,800円＋税）

ISBN978-4-8184-1138-8 C0016



2023年
7月25日
刊行予定

シリーズ
好評発売中

『今日のパン、明日の糧 暮らしにいのちを吹きこむ366のことば』 定価2,640円 『アダム 神の愛する子』 定価2,200円
『死を友として生きる 「最大の贈り物」 & 「鏡の向こう」』 定価2,420円 『傷ついた癒やし人 新版』 定価1,980円

霊 操

EJERCICIOS ESPIRITUALES

イグナチオ・デ・ロヨラ 著 川中 仁 訳・解説

神との深い交わりへの手引き



イエズス会の創設者聖イグナチオが、自身の霊的体験にもとづいて祈りの方法をまとめた、霊的修行プログラムの指導書。聖人の霊性と神学の精髓が表現された古典的著作であり、時代を超えて多数の信徒の信仰実践に供されてきた教会共通の遺産が、自筆稿からの最新の翻訳でいま蘇る。

《訳者紹介》川中 仁（かわなか・ひとし）… 1962年東京都生まれ。1984年イエズス会入会。1996年上智大学大学院神学研究科修了（STL）。2003年ドイツ・ザンクトゲオルゲン哲学神学大学で神学博士号（Dr. theol.）取得。2004年から上智大学神学部で教鞭を執る。上智大学副学長（2014～16年）などを経て、現在、上智大学神学部教授、同神学部長（2017年～）、上智大学キリスト教文化研究所所長（2019年～）。

四六判・並製・170頁・定価 1,100 円（本体 1,000 円+税）・ISBN 978-4-7642-6760-2 C0016

凜として生きる

キリスト教教育に魅せられて

平塚 敬一 著

渾身の言葉で語られたエッセイと講演

戦火、権力の暴走、自然災害、コロナ禍、愛妻との別離——心痛に満ちた日々の中で綴られた、平和と人間の尊厳を訴える時事・聖書エッセイ集と講演録。関東学院中高校長、立教女学院中高校長、横浜学院学院長などを歴任し、長年にわたりキリスト教主義学校の教育現場をリードしてきた著者が未来に遺すメッセージ。

西原廉太氏（キリスト教学校教育同盟理事長・立教大学総長）推薦！

《著者紹介》平塚 敬一（ひらつか・けいいち）… 1939年鹿児島県生まれ。立教大学文学部史学科卒業、東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了。関東学院中学校高等学校・定時制高等学校校長、横浜学院学院長、立教女学院理事長・中学校高等学校校長、関東学院人間環境学部・法学部講師、横浜共立学園常務理事などを歴任。現在、捜真学院評議員。キリスト教学校教育同盟常任理事（教育研究担当）、全国高等学校長協会常務理事・監事なども務める。著書に『神によりてやすし——平塚勇之助自伝』（1989年）、『時代を見据えて——キリスト教学校教育の将来は』（2011年）、『老教師の聖書レッスン——世の荒波を超えて』（2019年）ほか。

カール・バルト 《教会教義学》の世界

寺園喜基 [著]

四六判・並製・360 頁・本体 2,800 円（税込定価 3,080 円）
ISBN 978-4-400-32376-1 C1016



1957 年、《教会教義学》「和解論」執筆の頃のバルト。

広く自由な神の恩寵の世界を
精緻かつ壮大に描き上げた
20 世紀の神学大全を道案内する。

バルトの主著《教会教義学》は 20 世紀神学における最も重要な貢献の一つだが、邦訳で 36 巻に及ぶ膨大で複雑な内容は、通読はおろか全容を見通すことも困難である。本書は、生涯にわたり《教会教義学》に取り組んできた著者が一般読者のために試みた平易な道案内であり、バルト神学への無二の入門書ともなっている。

著者てらぞの・よそ氏は 1939 年生まれ。九州大学名誉教授。また西南学院大学教授、院長、理事長、福岡女学院院長を歴任。著書『カール・バルトのキリスト論研究』（創文社）、『途上のキリスト論』（新教出版社）他。

目次

序章 『教会教義学』に至るまで

第一巻 神の言葉についての教説——『教会教義学』への序論

- 1 神、語り給う／2 三位一体の神——啓示の根拠／3 言葉の受肉——イエス・キリストにおける啓示の出来事／4 聖霊の注ぎ——人間における啓示の受容／5 聖書——啓示の証言／6 説教——教会に委託された啓示

第二巻 神についての教説『神論』

- 1 神の認識／2 自然神学の否定／3 神の現実性／4 大いなる神のドラマ／5 福音の総計としての神の恵みの選び——予定論／6 神の戒め——神論における倫理学

第三巻 創造についての教説『創造論』

- 1 創造者なる神を信じる／2 創造と契約／3 人間の創造／4 神の摂理——創造者なる神の被造物への配慮／5 虚無的なもの／6 天使論——天の国・神の使い・敵対者／7 創造論における倫理学の課題／8 神の前での自由／9 交わりの中での自由／10 生への自由／11 限界の中での自由

第四巻 和解についての教説『和解論』

- 1 僕としての主イエス・キリスト
／1 和解論の構造／2 神の子の従順／3 父の判決／4 人間の高慢と墮落としての罪／5 人間の義認／6 聖霊とキリスト教団の集まり／7 聖霊とキリスト教信仰
- 2 主としての僕イエス・キリスト
1 人の子の高挙／2 王的人間／3 御子の訓令／4 人間の怠慢と悲惨としての罪／5 人間の聖化／6 聖霊とキリスト教団の建設／7 聖霊とキリスト教的愛
- 3 真の証人イエス・キリスト
1 真の証人イエス・キリスト／2 生の光／3 イエスは勝利者／4 御霊の約束／5 人間の虚偽と断罪／6 人間の召命／7 聖霊とキリスト教団の派遣／8 聖霊とキリスト教的希望
- 4 和解論における倫理学『断片』
1 洗礼論／2 「主の祈り」の講解

神田外語大学大学院言語科学研究科教授／キリストの平和教会牧師

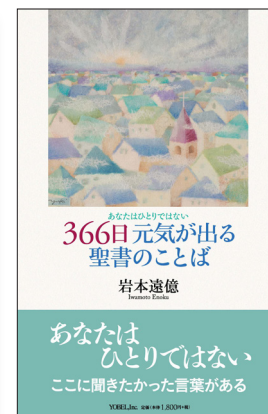


岩本遠億 ルカの福音書説教集 1

神はあなたの 真の願いに答える



好評発売中、在庫僅少
46判上製・264頁
1,980円(税込)



6版出来！
A5判変型上製・344頁
1,980円(税込)

7月20日刊行予定

「目から鱗」を超える感動！

「イエスの時代に連れていかれる」「止まっていた映像が動き出す」

「生々しいまでのイエスの息・体温・脈動！」（『HP説教』読者の感想より）

「しかし、表面的な願いと、この中に隠れている真の願いは違うかもしれない。神の臨在に触れられる時に、自分の中に隠れている真の願い、この実存の願い、神の子としての願いを知るのです。それは、表面的に願ってきたことと対立するかもしれません。しかし、神様は、私たちに私たちの真の願いを知らせ、私たちを聖霊に満たし、その実現のために私たちが自ら進んでいくように導かれるのです。」

神はあなたの真の願いに答える ルカの福音書第1章より

メシアを育てる ― この人のために生きよ ルカの福音書第2章1～9節

神はこの命を愛してくださっている ルカの福音書第4章1～4節

真の権威はここに立つ ルカの福音書第4章5～8節

「私は特別」の落とし穴 ルカの福音書第4章9～13節

否定されても、何度否定されても ルカの福音書第4章14～30節

そのままわたしのそばにいなさい ルカの福音書第5章1～11節

「私みたいな者」とは言わせない ルカの福音書第5章12～13節

答えは神のいのち ルカの福音書第5章17～26節

自己分裂の中から ルカの福音書第7章1～10節

この存在の真の願いを知る ルカの福音書第7章18～23節

神のしもべはこれによって生きる ルカの福音書第7章24～30節

いのちに満ちあふれることこそ ルカの福音書第8章40～56節

キリストはあなたが死んでもあなたを諦めない ルカの福音書第8章40～56節

あとがき

著者略歴：岩本遠億（いわもと・えのく）

1959年名古屋生まれ。東京学芸大学、国際基督教大学大学院を経て、オーストラリア国立大学博士課程修了。言語学博士。神田外語大学大学院言語科学研究科教授。キリストの平和教会牧師。1988年～1989年、1990年パプア・ニューギニア伝道。2001年イエス・キリスト教会（単立）の牧師に任職される。2003年11月ミッション・エイド・フェローシップ聖書教師。2006年8月「キリストの平和教会」を立ち上げる。著書：『聖霊の上昇気流 神は見捨てなかった』（2022年）、『366日元気になる聖書のことば あなたはひとりではない』（以上ヨベル、2020¹年、2023⁶年）、『元気の出る聖書のことば 神さまの宝もの』（2009年）、『元気の出る聖書のことば 神さまは見捨てない』（2010年、以上いのちのことば社）、『Linguistics: In Search of the Human Mind』（編）（開拓社、1999年）、『事象アスペクト論』（開拓社、2008年）他。e-mail：enoch.iwamoto@gmail.com

新書判・216頁・定価1,320円

本体1200円＋税 ISBN978-4-909871-92-3 C0216

ヨベル Yobel Inc. 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1 T 03-3818-4851 F 03-3818-4858



金子晴勇 [著] (ヨーロッパ思想史) [全 7 巻別巻 2]



ヨベル新書 090

キリスト教思想史の諸時代 別巻 1

アウグスティヌスの霊性思想

[第 8 回配本]

2023 年 8 月 15 日刊行予定

「不安な心」に呻吟し、あの「ミラノの回心」を経て、最も著名な教父の一人となったアウグスティヌスをキリスト教霊性の先駆者として捉え、その全体像に肉迫！

このように被造物に創造の初めから与えられている根源的な対向性は「あなたのうちに (in te) 憩うまで安らぎを得ない」とあるように、その目標とするところは神の内にある平安である。この平安に至るまでの状態は「わたしたちの心は不安に駆られる」と説明される。(本書より)

《主な目次》

序論 霊性思想史におけるアウグスティヌスの意義

第 1 章 「心の対向性」としての霊性思想

- ① 霊性は「神への対向性」である／② 「不安な心」の意義／③ プラトン主義の神秘的体験／④ ミラノの回心物語

第 2 章 「告白録」の霊性

- ① 「心の不安」としての霊性／② ケクロによる知的な回心／③ プラトン主義の神秘的体験／④ ミラノにおける回心

第 3 章 神への超越と霊性機能

- ① 霊性の超越機能／② 聖なる愛と霊性活動／③ 「神の像」と「神の似姿」

第 4 章 神の観照から霊性の育成

- ① 司牧活動から来る精神的变化／② 享受と使用における霊性

機能

第 5 章 聖霊の受容機能としての霊性

- ① 「霊と文字」における生かす霊／② アウグスティヌス祈りとペラギウスの批判／③ 「アウグスティヌスの祈り」の解釈／④ 第 2 の祈りと協働を志向する意志

第 6 章 霊性の創造作用としての愛

- ① 「愛によって動く信仰」の意義／② 愛の命法と倫理／③ 結婚の三つの善と神律倫理／④ ペラギウス論駁書における霊性機能

第 7 章 霊的人間と霊化する恩恵

- ① 人間の自己理解の深化／② 恩恵の先行性と信仰／③ 人間の類的理解による内的人間と霊的人間／④ ローマ書第 7 章の解釈／⑤ 恩恵論の完成した図式／⑥ 恩恵による自由の発展

第 8 章 『神の国』における霊性

- ① 人間学の完成された図式／② 霊的な人間の完成した姿／③ 霊的な身体理解

第 9 章 説教集における霊性

- ① 『説教集』159 における霊的感覚／② 『詩編講解』の霊性思想／③ 『ヨハネ福音書講解説教』の霊性思想

第 10 章 『書簡集』における霊性

- ① 謙虚と霊性 (書簡 118 の研究)／② 霊性と神の直視 (書簡 147 の研究)／③ 神の現臨 (書簡 187 の研究)

あとがき

書評再録 (評者：阿部善彦氏)

全巻構成 (赤字は既刊 各巻 新書判・平均 272 頁・1,320 円税込)

I ヨーロッパ精神の源流 [好評既刊 再版]

II アウグスティヌスの思想世界 [好評既刊 在庫僅少]

III ヨーロッパ中世の思想家たち [好評既刊]

IV エラスムスと教養世界 [好評既刊]

V ルターの思索 [好評既刊]

VI 宗教改革と近代思想 [好評既刊]

VII 現代思想との対決 [好評既刊]

別巻 1 アウグスティヌスの霊性思想 [第 8 回配本]

別巻 2 アウグスティヌス『三位一体論』の研究 [第 9 回配本 2023 年 12 月予定]

著者紹介 金子晴勇 (かねこ はるお)

1932 年静岡生まれ。1962 年京都大学大学院博士課程中退。67 年立教大学助教授、75 年『ルターの人間学』で京大文学博士、76 年同書で日本学士院賞受賞。82 年岡山大学教授、1990 年静岡大学教授、1995 年聖学院大学客員教授。2010 年退官。 主な著書：『ルターの人間学』(1975)『アウグスティヌスの人間学』(1982)、『ヨーロッパ人間学の歴史』(2008)、『エラスムスの人間学』(2011)、『アウグスティヌスの知恵』(2012)、『知恵の探求とは何か』(2013)、『キリスト教人間学』(2020)、『私たちの信仰』(2020)、『人文学の学び方』(2020)、『ヨーロッパ思想史』(2021)、『東西の霊性思想』(2021²)。ほか多数 主な訳書：アウグスティヌス著作集第 9 巻 (1979)、ルター『生と死の講話』(2007)、ルター『神学討論集』(2010)、エラスムス『格言選集』(2015)、C. N. コックレン『キリスト教と古典文化』(2018)、エラスムス『対話集』(2019) ほか多数 太文字は小社刊行

金子晴勇 著



アウグスティヌスの
霊性思想

キリスト教思想史の
諸時代 別巻 1

キリスト教思想史の
諸時代 別巻 1



YOBEL, Inc.

新書判・256 頁・1,320 円 (税込)

本体 1,200 円 + 税 ISBN978-4-909871-48-0 C0216

ヨベル

YOBEL Inc. 〒113-0033

東京都文京区本郷 4-1-1

T 03-3818-4851

F 03-3818-4858

http://www.yobel.co.jp

第2版 重版出来!

聖書ヘブライ語 日本語辞典

聖書アラム語彙付

古代語研究会 編
谷川政美 著

A Biblical Hebrew
Japanese Lexicon
with Biblical Aramaic Vocabulary

ミルトス

7月20日入荷予定

[ISBN 978-4-89586-052-9 C0587]

聖書ヘブライ語 日本語辞典

聖書アラム語彙付 本体 12,000 円+税

古代語研究会〔編〕 谷川政美〔著〕 A5 判・並製 1264 頁(束 3.5 cm)

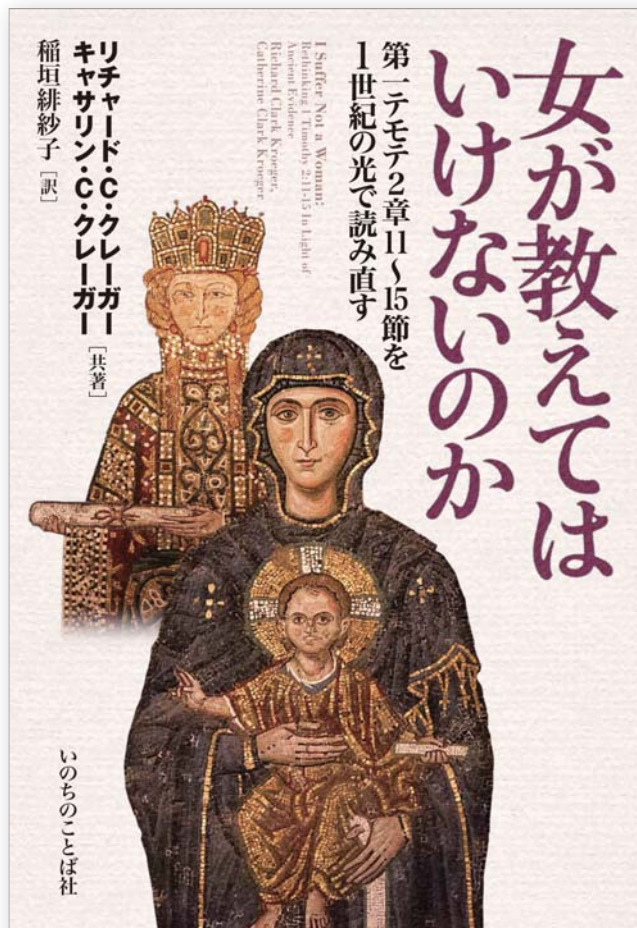
本格的な聖書ヘブライ語辞典がコンパクトでお求めやすい価格に!

聖書ヘブライ語の語彙約 1 万語を収録し、変化形の大半を網羅。頁の右側にヘブライ語を、左側に日本語の訳語を配置し、調べやすいよう配慮されています。日本語訳には主な聖書箇所を明記。さらに、語根の発見が困難な形については見出し語として掲載し、同時に語根も示しています。巻末には聖書アラム語の語彙も網羅。著者が 10 年の歳月を費やし、綿密に調べ上げた集大成!!

● 著者紹介 ● 谷川政美 (たにがわ まさみ)

1945 年、長崎県生まれ。1973 ~ 1976 年、イスラエル留学。エルサレムで現代ヘブライ語を学んだ後、グレゴリアン大学聖書研究所(エルサレム - ローマ)にて、旧約聖書ヘブライ語・旧約聖書アラム語・新約聖書ギリシア語履修・ウガリト語専攻。聖書学修士。1985 年エジプト(カイロ)留学。文部省直轄機関においてアラビア語研究。古代語研究会主宰。著書に『聖書ヘブライ語』(サンパウロ)、『ウガリト語入門』(キリスト新聞社)、『フェニキア文字の碑文——アルファベットの起源』(国際語学社)他多数。

女性が指導者になることを
神は禁じたか？



女が教えてはいけないのか

第一テモテ 2 章 11~15 節を
1 世紀の光で読み直す

リチャード・C・クレイガー、
キャサリン・C・クレイガー 共著
稲垣緋紗子 訳

キリスト教会が女性教職・指導者を否定する根拠とされてきた教え「女が教えたり支配したりすることを許しません」は、普遍的な聖書の要求なのか？ この書簡が送られた時代、テモテが牧会していた女神信仰の本拠地エペソの教会にパウロが求めたことの真意を、古代の資料と厳密な釈義から解明し、聖書全体が女性リーダーを肯定していることを明らかにする。

私たちの目的は、人は神が導くどんな所のどんな働きでも、男も女も平等に、献身と奉仕へ召されることを、聖書を根拠として主張することである。本書は、しばしば女性による宣教を妨げ、議論的となっている箇所、すなわち第一テモテ 2 章 12 節を、入念かつ細心の注意を払って論じようとするものである。この箇所は、女性の役割と地位についての議論で、あまりにもしばしば要となっている。そういうわけで読者は大量の関連資料に触れることになる。本書に登場する資料の多くは古代エペソの宗教と文化を扱っており、その分野を専門とする者でも容易に手にすることのできないものである。（本文より）

四六判 296頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

ISBN978-4-264-04412-3 C0016

いのちのことば社 卸コード 20040